

喜びも悲しみも幾歳月

作詞：木下忠司 作曲：木下忠司

俺ら岬の 灯台守は

妻と二人で 沖行く船の

無事を祈って 灯をかざす

灯をかざす

冬が来たぞと 海鳥なけば

北は雪国 吹雪の夜の

沖に霧笛が 呼びかける

呼びかける

離れ小島に 南の風が

吹けば春来る 花の香便り

遠い故里 思い出す 思い出す

星を数えて 波の音きいて

共にすごした 幾歳月の

よろこび悲しみ 目に浮ぶ

目に浮ぶ